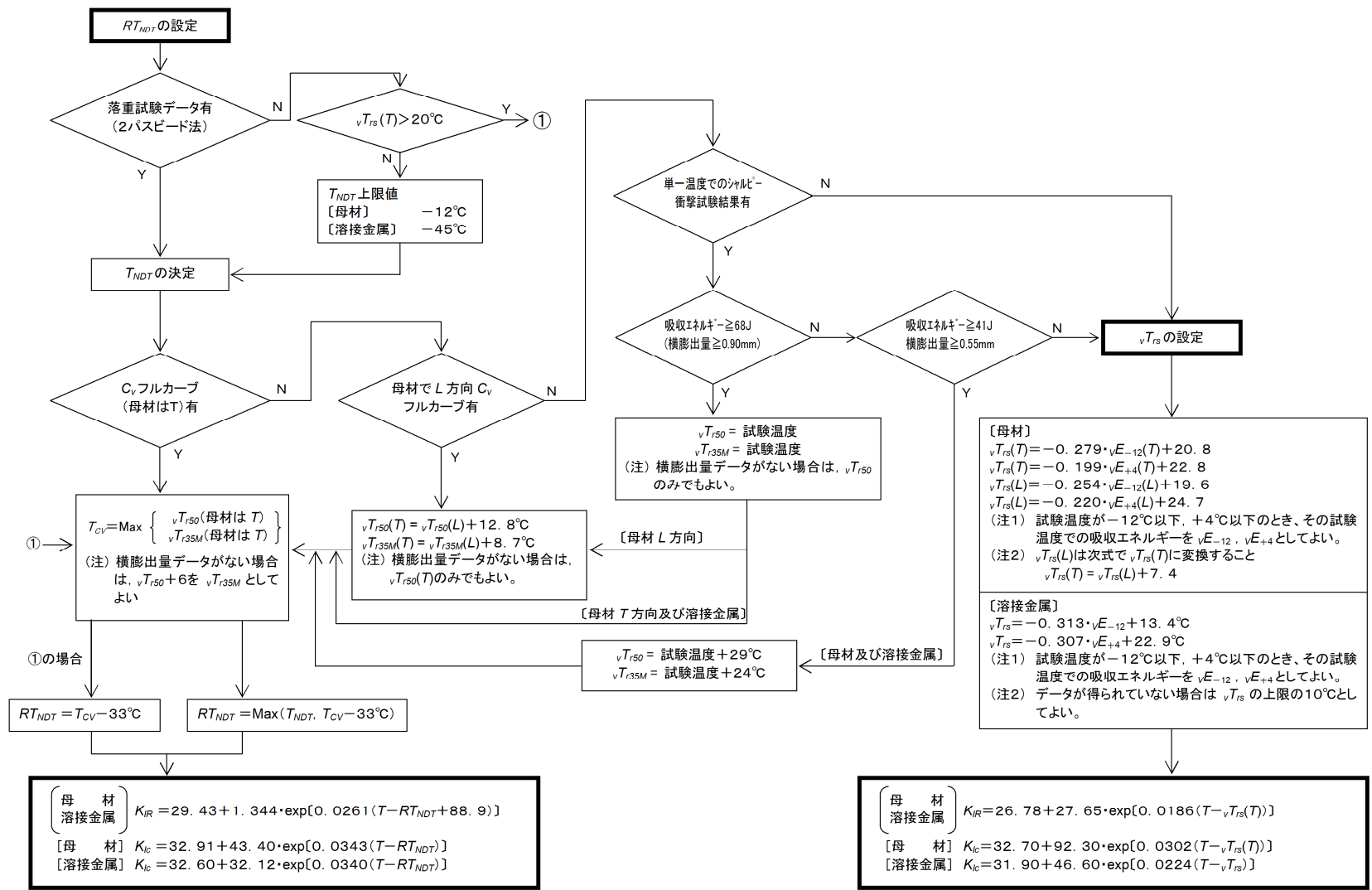


原子力発電所用機器に対する破壊靱性の確認試験方法(JEAC4206-2007)正誤表

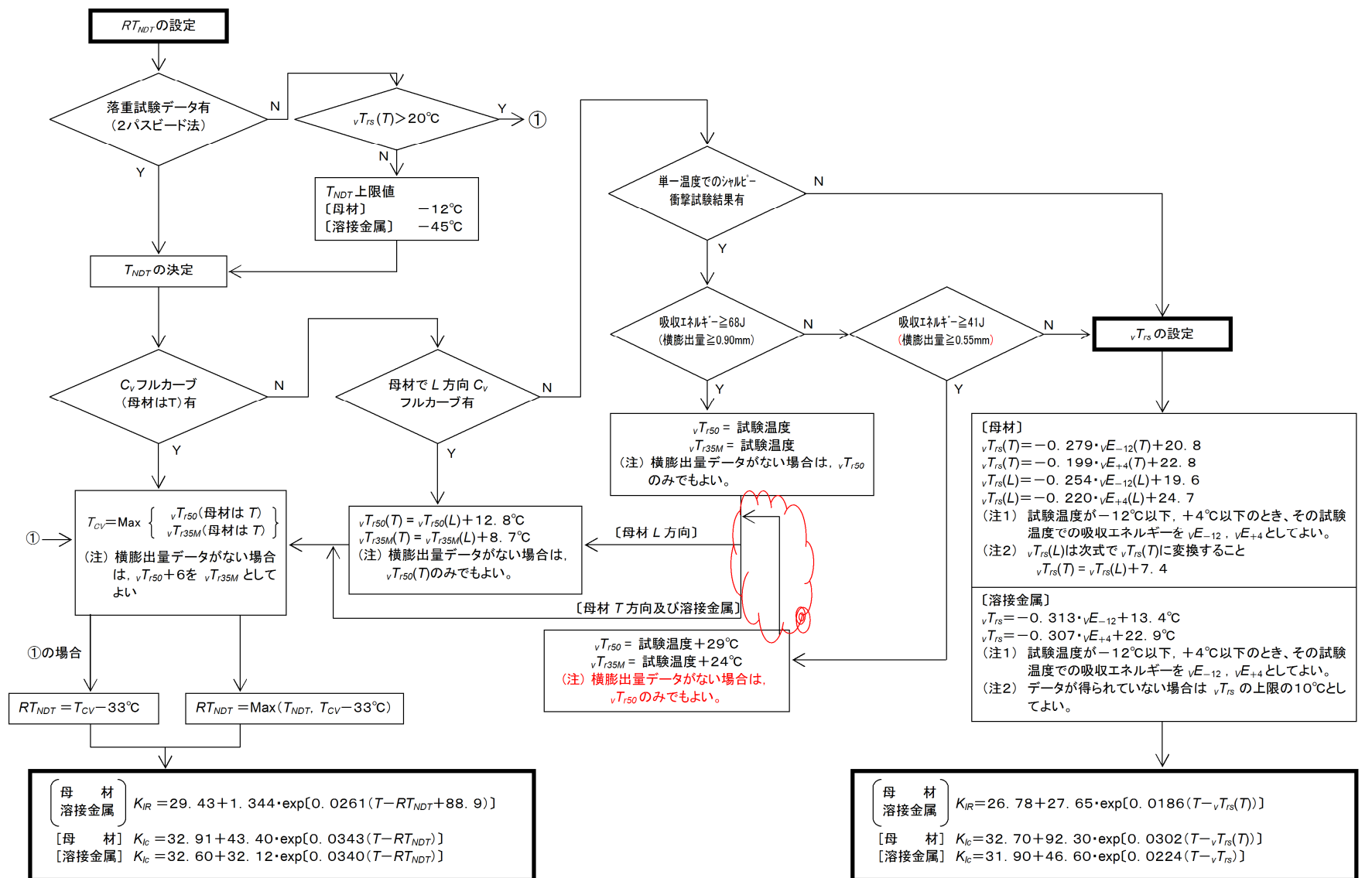
No.	頁	条項番号	誤	正	備考
第 3 章 クラス MC 容器					
1	12	FE-2100 容器材料 (2) b.	b. 衝撃試験 容器の最低使用温度より 17 低い温度以下の温度で 3 個の試験片を 1 組として試験を行い, JSME 設計・建設規格 <u>PVB-2333.2</u> の要求を満足すること。但し, 溶接部にあつては JSME 溶接規格の要求を満足すること。	b. 衝撃試験 容器の最低使用温度より 17 低い温度以下の温度で 3 個の試験片を 1 組として試験を行い, JSME 設計・建設規格 <u>PVE-2333.2</u> の要求を満足すること。但し, 溶接部にあつては JSME 溶接規格の要求を満足すること。	参照する JSME 設計建設規格の条項の誤記
2	12	FE-2200 ボルト材料 (2)	(2) 衝撃試験 容器の最低使用温度より 17 低い温度以下の温度で, 3 個の試験片を 1 組として試験を行い, JSME 設計・建設規格 <u>PVB-2333.2</u> の要求を満足すること。	(2) 衝撃試験 容器の最低使用温度より 17 低い温度以下の温度で, 3 個の試験片を 1 組として試験を行い, JSME 設計・建設規格 <u>PVE-2333.2</u> の要求を満足すること。	参照する JSME 設計建設規格の条項の誤記

No.	頁	条項番号	誤	正	備考
附属書 E 破壊靱性評価方法					
3	附 E-8	附属書図 E-5000-1 初期プラントの 破壊靱性評価フ ロー	(次頁に添付)	(次頁に添付)	誤記訂正 変更箇所は、赤 字で記入

誤



正



No.	頁	条項番号	誤	正	備考
〔附属書 F〕 応力拡大係数					
4	附 F-2	附属書図 F-3100-1	(図中) 膜応力 $\left\{ \begin{array}{l} \underline{K_{IM}} = \underline{M_{M-m}} \\ \underline{K_{Im}} = \underline{M_{m-m}} \end{array} \right.$ 曲げ応力 $\left\{ \begin{array}{l} \underline{K_{Ib}} = \underline{M_{B-b}} \\ \underline{K_{Ib}} = \underline{M_{m-m}} \\ \underline{Mb} = 2/3 \cdot \underline{M_m} \end{array} \right.$	(図中) 膜応力: $\underline{K_{Im}} = \underline{M_{m-m}}$ 曲げ応力: $\underline{K_{Ib}} = \underline{M_{b-b}}$ $\underline{Mb} = 2/3 \cdot \underline{M_m}$	F-3100(1) 及び F-3100(2) の規 定との不整合
5	附 F-2	附属書図 F-3100-1	(図中 縦軸の記号) $\underline{M_m}$	$\underline{M_m} \underline{(\sqrt{m})}$	単位の抜け
6	附 F-3	附属書図 F-3100-2	(図中) $= 1.26 \times 10^5 \text{mm/mm} \cdot$	(図中) $= \underline{12.6} \times 10^{-6} \text{mm/mm} \cdot$	べき指数誤記
7	附 F-7	附属書図 F-3400-1	(図中) $= 1.26 \times 10^5 \text{mm/mm} \cdot$	(図中) $= \underline{12.6} \times 10^{-6} \text{mm/mm} \cdot$	べき指数誤記